

生理の嗜み

栗栖家の主婦紀子は、3人の娘達の結婚に備え、女として必要な嗜み『女の騷』をしなければなりません。

今日は次女の郁代の生理がそろそろ終わつた頃です。郁代は先月もこの事で問題がありました。紀子は生理と女の羞恥心について、郁代にお仕置きをして『女の騷』をしなくてはと、心に決めています。

お生理の始末

梅雨の晴れ間、六月の爽やかな風が吹く日曜日の朝、窓の外は明るい庭が広がり、お風呂場の外の無花果の木には沢山の青い実が膨らみ始めています。

洗濯場では、お手伝いのお節が洗濯物を寄り分けて、洗い桶にお風呂の残り湯を張って洗濯の準備中です。

そこに夫婦の洗濯物を持った紀子が入って来ました。

「あら！ お節！ それなに？」

と言って、寄り分けた娘達の下着の中から一枚のパンツを取り上げ、

「郁代さん！ どこに居るの？ こっちへいらつしやい！」

大きな声で娘を呼びました。郁代は三姉妹の次女で、高校一年生です。

「なあに？ どこ？ お母さん！」

郁代が走って来て、何だろうと母の顔を覗き込みます。

「郁代さん！ このお生理のパンツ、貴女なのでしょう！ どうして一緒にここに出したの！」

「あつ！ それ私の！ ごめんなさい！」

「いつも教えているでしょう！ お生理のパンツは自分で洗って始末する様に！ 他の人に洗わせるなんて！ 女として恥ずかしい事でしょう！」

「本当にごめんなさい！ 後で洗おうと、ちよつと置いてしまったの。今洗います！」

「これで何回目ですか？ あなたの不始末！ 洗った後でお部屋に来なさい！ この不始末、許しません！ お仕置きです！」

紀子はきつい顔で郁代を叱り、戻って行きました。

郁代はお仕置きと母に言われ、節ちゃんにも聞かれて恥ずかしく、下を向いてお生理のパンツを手洗いしました。

洗い終わって自室に戻り、パンツを窓際に干しました。これから、母のお部屋でお尻に痛いお仕置きをされると思うと、母の部屋が遠く感じてしまいます。

## 女の心得

「お母さん！ ごめんなさい！ この次のお生理ほんとに気を付けます！」

「今日は郁代さん！ 女としての大事な躰をします！ 大人になって恥をかかないように、羞恥心を持った女性になる為のお仕置きです！」

「はい！ お母さん！ ごめんなさい！ もう忘れません！」

「ここへきて、私の膝に乗りなさい！ 早く！ ここ！」

紀子は、鏡台の椅子に腰掛け、膝を叩いて母親の権威を示しながら娘を膝の上うつ伏せに乗せました。

そして、スカートをたくし上げて郁代のお尻を出したのです。

郁代は母の膝にお尻を高く乗せられて、両手を畳についてお仕置きを待たされます。

紀子は郁代のパンツを引き下ろし、大人びてきた郁代の双丘を撫でながら、

「しっかりお尻で反省なさい！ 郁代さん！」

「はい！ 反省します！ お母様！」 ピシッ！ ピシッ！ ピシッ！ ピシッ！

「イタイッ！」 ピシッーッ！

「イタイッ！ ゴメンナサイーッ！」 ピシーッ！

郁代の円いお尻は、紀子の平手で見る見るうちにピンクに染まります。

郁代は脚をバタバタさせ逃れようとしてはますが、紀子は足を絡めて押さえながら叩きます。

郁代はその痛さに脚をバタつかせ肛門もあらわにお尻を突き出して、

「アア！ イタイーッ！ イヤーッ！ ごめんなさいー！ 気を付けます！ もうしません！ お

母様ー！」

「まだダメ！ 女は羞恥心が大事なのよ！ お生理のこと他の人に見られたら恥ずかしいでしょ！

女は男と違って血を流して生きているのよ！ だからお生理は隠して見せないのよ！」

ピシッ！ ピシッ！ ピシッ！ ピシッ！

「お母さん！ イッタイッ！ 許して！ これから気を付けます！」

紀子は、ピンクから赤に変わる郁代のお尻を叩きながら

「男の人は女のお生理の事は皆知っていますよ。でも、その現実を見た事が無いのよ！ それは女

の秘密です！ 女らしさはね、恥ずかしい事を隠す羞恥心が女の魅力をつくります。わかったの！

郁代さん！」

母親の紀子は、一際強く赤く腫れたお尻の頂点を叩きました。その時、異変が起こったのです！

郁代の赤いお尻の谷間から、「ぶう、ぶブウ！ び！」

予期せぬ臭いオナラが漏れ出てしまいました。

強く叩かれて、もがいているうちに、締めていた肛門が油断したのです！

## お仕置き浣腸

「あら、郁代さん！ 恥ずかしいわね！」

お行儀悪いですよ！ あら？ そうなの？！ あなたお便秘してるのね！」

紀子は、鏡台の引き出しから直ぐにワセリンを取り出して人差し指で掏い取り、目の前の真っ赤な郁代のお尻を割って郁代の肛門に塗り込みました。

「ああ！ お母さん！ 許して。」

紀子はその指を肛門に入れ、郁代の便秘のお調べをしたのです。

「郁代さん！ お便秘して何日なの？ お便が硬くなっていますよ！」

「まだ4日目です！ 今日はお出ると思っていたのに！」

「何で言わなかったの！ お母さんに！ 何時も言っているでしょう！ お便秘は女の敵だって！」

これからお浣腸して溜めた便を全部出しますよ。」

紀子は引き出しに常に用意してあるイチジク浣腸を取り出しました。

「これも女の躰です！ 女のお便秘はほっておくと癖になりますよ！」

母の膝の上で、もじもじと肛門を隠そうとする郁代のお尻を左手で開き、肛門深くイチジク浣腸を差し入れました。

「アア！ ダメ！ ゆるして！」

紀子はイチジク浣腸のピンクの膨らみを静かに潰し注腸しました。

「いつも言っているでしょう！ お便秘は女を醜くしますよ！ お便がお腹に詰まっていたら、表情が暗く陰気になるでしょう！ お便秘持ちでは旦那様に嫌われて、楽しい結婚生活は送れませんよ！」

紀子は娘の肛門からイチジク浣腸を抜き、潰れたピンクの浣腸を鏡台に置いて、郁代の濡れた肛門をカット綿で押さえています。

「お母さま！ お腹痛い！ ごめんなさい！ もうお便所ー。」

「まだダメです！ 我慢なさい！ 女のお便秘の躰です！」

紀子は実家の母に躰けられた様に、女のお便秘について娘に躰の浣腸をしているのです。

「もうダメ！ 出そう！ お母さん！」

紀子は郁代の肛門がピクピクして急を告げている様子に、

「さあ！ もういいでしょう！ お便所に行きましょう！」

郁代はちり紙でお尻を押さえ、腰を曲げてそろそろと廊下を歩きます。

お便所に無事に着いてようやく和式の便器を跨ぎ、お仕置きで紅く腫れたお尻を下すことができま  
した。

「もう出しているですよ！ あまり息まずにゆっくりとお出しなさい！ お母さんが見えていますか  
らね！」

紀子は後ろから郁代の排便の様子を見えています。

「ああ！ でる！ やだあ！ お母さん！」

郁代の肛門がぐつと押し出され、浣腸液が漏れ出して詰まっていた硬い便がゆっくりと出てきま  
す。

オシッコもチョコロチョコ漏れ出し、先頭の硬くなつた便がポトンと出ると、

「ウン！ 出る！ いっぱい出ちゃう！」

大きなオナラと一緒に、大量の浣腸便をミチミチと出し続け、最後に腸の奥からプシュツとガス  
を出して長い排便が終わりました。

「沢山出たわよ！ お腹にこんなに古いお便を溜めてたのよ！」

紀子は娘のお尻を挙げさせて、肛門をちり紙で拭いた後、濡らした脱脂綿で郁代の肛門を丁寧にな  
きとりました。

そして便器に溜まった便を郁代に見せて、便秘の便質と量を確認させたのです。

「お尻落ちついた？ もう大丈夫？ お部屋に戻りましょう！」

## お尻の手当

郁代は母の布団に寝かされて両脚を挙げさせられ、排便後の肛門に傷が無いかわ調べられています。

「郁代さん！ お尻は切れてないわ！ 良かった！ 切れたら後で痔になったりするから怖いの  
よ！ お便秘しないように気を付けてね！」

紀子は郁代の肛門にワセリンを塗り浣腸後の肛門の手当てをした後、郁代をうつ伏せに寝かせて、

お仕置きで赤く腫れたお尻にベビーオイルをたっぷり塗り込み、お尻の手当ても終わりました。郁代はパンツを履いて身繕いしています。

紀子は娘の郁代を胸に抱きしめて、

「お生理は問題無かったのね！ お便秘も知られたくない女の秘密ですよ。大人になって結婚すると、もつと女の秘密が増えるのよ！ あなたの将来のために、今のうちに女としての躰けが大事な」の。

「お母さん！ ありがとうございます！ これから気をつけます！お 母さんの様な女性になりたい！ 駄目な時はお浣腸もお仕置きしてください！」

紀子は将来結婚する娘達を、羞恥心を持った家庭的な女性にしたいと、毎日努力重ねています。

## 妻の躰

これは紀子の実家の母親が紀子に与えた母の『愛の女の躰け』ですが、結婚後の紀子の家庭ではそれが十分に生かされているようです。

結婚するまでの紀子は、実家の母親に女としての躰を厳しくされてきました。

それは『羞恥心』を忘れないこと、羞恥心が女の魅力を醸し出す事を、お仕置きや浣腸で躰けられたのです。

結婚して娘を産んでからは、その経験が娘達の躰けに生かされているのです。

一方で、紀子自身が便秘していて、それを隠して寢床に入り、主人の好太郎に見つかれば、その手で直ぐに浣腸をされてしまいます。

紀子は実家の母に受けた浣腸を思い出しながら、妻となって夫にされる浣腸の恥ずかしさに甘え鳴きし、夫の愛を感じながら陰唇を濡らす事になります。

そして紀子は排泄の羞恥の中で媚態を作り、主人の愛に応えることになるのです。